

ねんせい 4年生「KLG」コンサート(9/26)

伊賀市のひまわり作業所「ふっくりあ(ほんわかする、いごこちのいいという意味)」から、「KLG」(小池千鶴子さんと水谷展子さん)のお二人に来校いただき、歌とお話をいただきました。

歌では、『にじ』など、子どもたちにもなじみのある曲をたくさん歌っていただきました。知っている曲が流れたときは、子どもたちも口ずさんだり、手拍子をしたりして、一緒に楽しんでいました。西城秀樹さんの「ヤングマン」や、手話を交えての「友だちになるために」では、みんなも身振りや手話をしながら一緒に楽しんでいました。

トークでは、小池さんが「『自閉症』である私は、細かいことが気になったり、パニックになったり、なんて言ったらいいかわからなくなったり、予定が気になったりします。」そして、「得意なことは、日にちを覚えたり、人の名前や誕生日などを記憶したりすることが得意です。」と話してくださいました。また、水谷さんからは、指の先や指と指の間を指し示しながら、「人には得意なところもあれば、苦手なところもある。」そして、両手を指と指の間を埋めるように組んで、「私の苦手なところを小池さんが補い、小池さんの苦手なところを私が補う。つまり、小池さんと私の関係は、『助け、助けられる関係』で、二人がいないと成り立たないのです。同じように、これからの世の中は、障がいがあるなしに関係なく、お互いに支え合える関係にしていけることが大切です。」と話されました。

子どもだけでなく、大人の方の中にも、「障がい=できない」といったマイナス的なイメージで「障がい」ととらえられている方も多いように思います。そうした「障がい」のとらえが、これから学習していく中で、自分との関わりや社会との関わりの中での「障がい」ということを考えられるようになってほしいと思っています。

1時間があったという間に感じるコンサートで、小池さんの透き通るような歌声と水谷さんが奏でる演奏で、とっても心地のいい時間を過ごすことができました。



ねんせい いねか 5年生 稲刈りをしました。~壬生野地域まちづくり協議会とJA いがふるさととの連携授業~

6月に田植えをした田で稲刈りをしました。今回も、壬生野地域まちづくり協議会の産業振興部会の方とJA いがふるさとの方にお手伝いをいただきました。



初めに、学校で子どもたちが育てた「バケツ稲」の刈り取りをしました。JAの方からは、水がしっかり管理できていたので、株分けも十分で、「しっかり実っている」とお褒めの言葉をいただきました。



その後、田に入り、「のこぎり鎌」を使って、一株ずつ刈り取っていきました。今回は、田の水抜きが十分でなかったため、泥に長靴をとられ、立ち往生していた子どもたちもいましたが、泥だらけになりながらも、お手伝いの方に教えてもらいながら、みんなで力を合わせて刈り取りをしました。初めて稲刈りをしたという子どもがほとんどでしたが、家で稲刈りの手伝いをしているという子どもの手つきはさすがでした。

11月には、今回収穫した米から作った米粉を用いてお菓子作りをする予定です。

